

2020年度 現場点検において確認された「良好な取組み」

■ヒヤリハットの有効活用

■ハザードマップの活用

■レーダー画像を活用した接近船舶情報の共有

■安全教育における動画の活用

■連絡協議会の活用

■作業手順書の活用

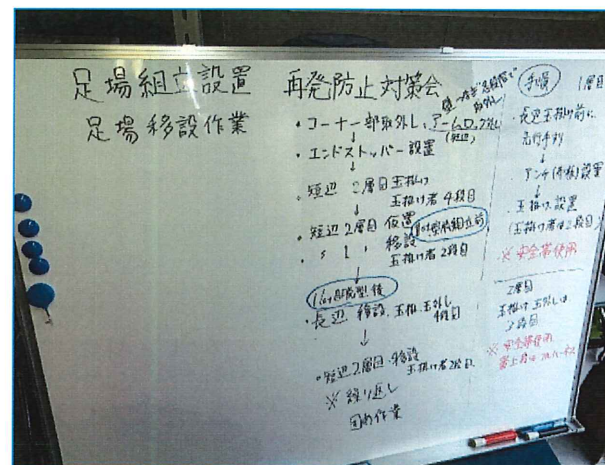
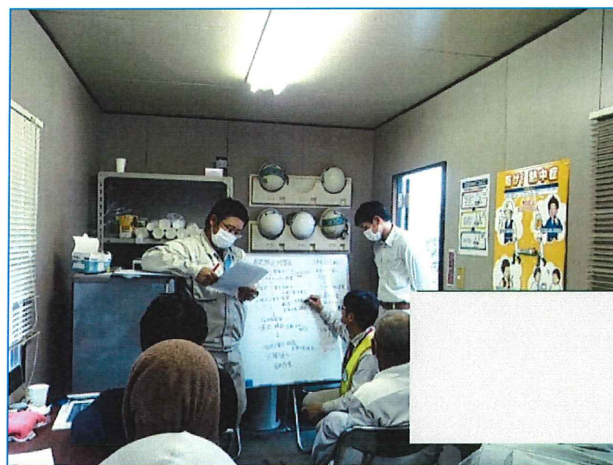
日本建設業連合会 安全委員会 海洋安全部会では、海洋工事現場の安全衛生、環境対策の推進のために全国の海洋工事現場から毎年数カ所を選び所属委員による点検を実施しています。

その際に、点検委員が確認した「良好な取組み」について取り纏めたものを紹介いたします。

■ヒヤリハットの有効活用

現場の安全巡視中に指摘した不安全設備（足場のエンドストッパー不備）に対して、災害に至る前のヒヤリハットととらえて再発防止対策会を実施していました。

一般的に安全巡視で指摘事項があった場合は是正措置を行うことで完了としますが、元請け及び関係事業者により設備不良が発生した原因を究明して再発防止対策を講じることで、未然に災害を防止するだけでなく安全管理体制の改善にもつながります。



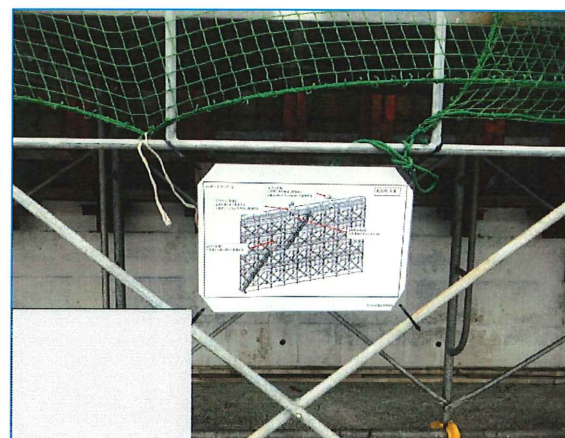
■ハザードマップの活用

建設工事に、ほとんど同じ現場はありません。また、現場に従事する者は、若い初心者から高齢の熟練者に及び、多職種のものが入れ替わり出入りします。

現場により危険の箇所も異なり、また、個人の熟練度や現場への従事日数の度合いにより、危険の感じ方も異なります。

現場のどこにリスクがあるかを予めハザードマップに文字、図絵などでわかりやすく注意喚起することにより、その場所への接近やその作業の実施に当たっての安全対策の徹底を図っているものです。

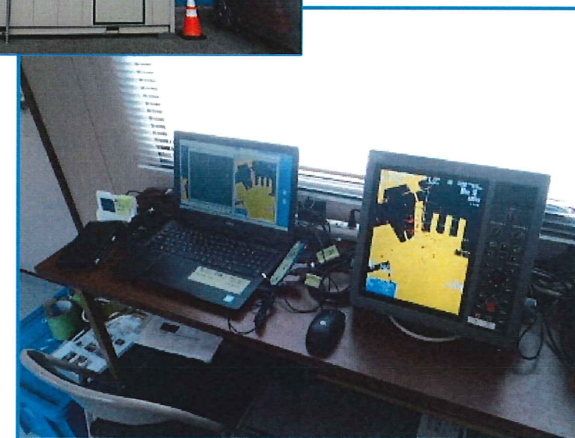
現場でのリスクを見える化することにより、現場に潜むリスクを誰にでもわかりやすく周知し、事前の対策に繋がり、有効に災害防止を図っています。



■ レーダー画像を活用した接近船舶情報の共有

目視では確認の困難な沖合から作業海域に接近してくる船舶の航行状況を、陸上事務所に設置したレーダシステムによって把握し、

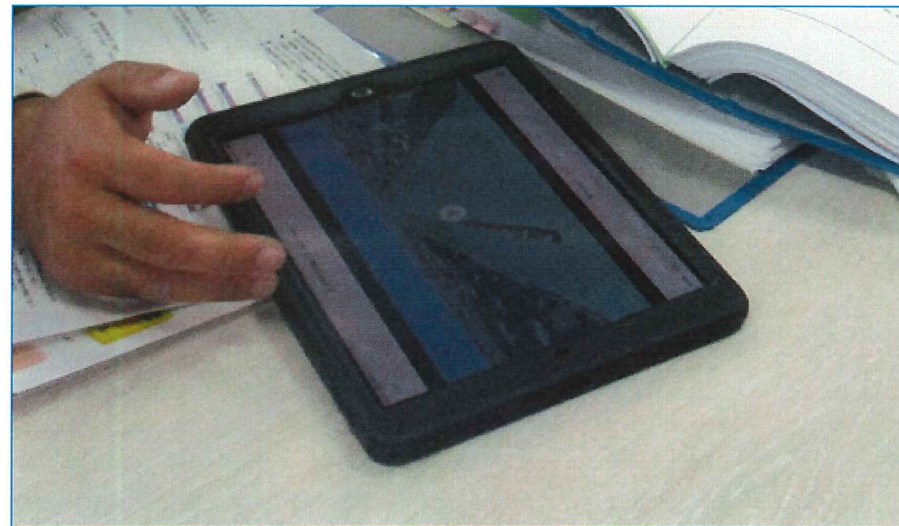
アラームを感知した場合は、警戒業務管理者が警戒船（船長）へ連絡するシステムが構築され、危険因子の早期共有に取り組んでいました。



■ 安全教育における動画の活用

新規入場作業員教育時に、CIM化（※Construction Information Modeling）したコンテナ船の入港動画を活用する事で、工事船舶とコンテナ船の位置関係ならびに、アンカーや警戒船の位置をより空間的に把握する事が可能となります。

工事状況に応じた、コンテナ船入出港時の複雑な対応ルールは、文章や平面図では、わかり辛いものの、この動画により、誰もが分かりやすく理解することが出来、事故防止に繋がる事が期待されます。



■ 連絡協議会の活用

港湾整備工事の実施にあたり、地方整備局と連絡を円滑に行い、関係機関との連絡調整、労働災害防止、船舶運航の安全及び工事の円滑化を推進し、公共工事の実施に万全を期すとともに、港湾のイメージアップ、グリーン化等の推進に寄与する事を目的とした（整備局発注工事の受注者からなる）「〇〇連絡協議会」が組織されていました。

協議会においては、様々な専門部会が設置され、それぞれの役割分担に基づき、工事施工・船舶運航を円滑に行う為の活動はもとより、安全・環境パトロール、地域清掃活動、見学会、防災訓練等、様々な活動が活発に行なわれています。

（※コロナ禍の状況を勘案して、活動の一部を自粛しています）



海岸清掃活動

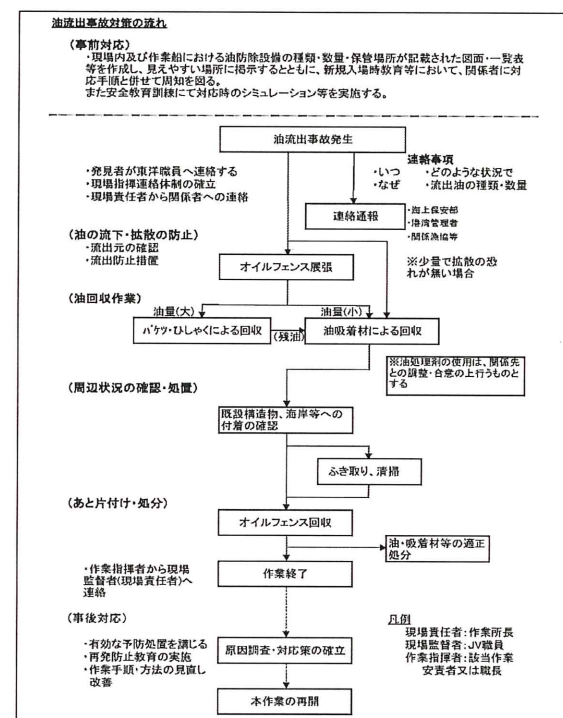
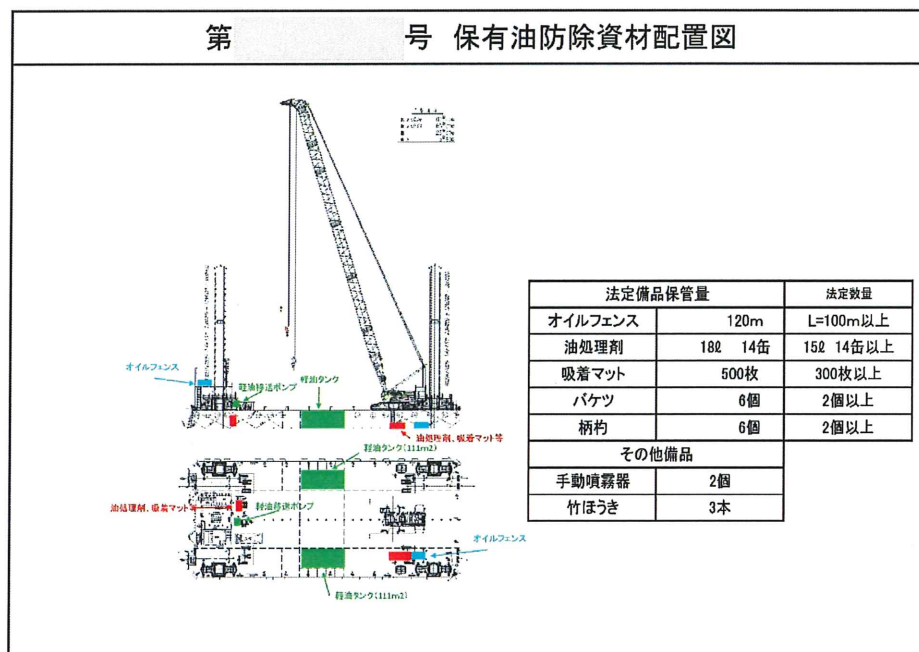


間伐作業体験

■ 作業手順書の活用

緊急時（油流出）の対応について、わかりやすい連絡系統一覧、現場及び作業船の油防除設備の保管場所が明示されていました。

また、作成された「油流出時対応作業手順」及び「給油作業手順書」においては作業の対応判断がわかりやすい作業フロー、役割分担などが整理されていました。





確かなものを 地球と未来に

一般社団法人 **日本建設業連合会**

JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

安全委員会 海洋安全部会